

創造

JA いけだ
CREATION

今月の表紙写真は、12月13日に開催された「十勝池田町農協青年部設立30周年記念式典・祝賀会」の集合写真です。詳細は2ページをご覧ください。



CONTENTS

- ※十勝池田町農協青年部設立30周年
記念式典・祝賀会を開催
- ※第41回十勝農協連海外農業研修視察
- ※しょくいくつうしん
- ※21NEWS アラカルト
- ※シリーズ 協同組合と報徳

- ※生産資材課より
- ※金融共済課・生産資材課より
- ※畜産部通信
- ※今月の1枚
- ※理事会の動き
- ※編集後記

2019.

2
FEBRUARY

No.110

十勝池田町農協青年部設立30周年 記念式典・祝賀会を開催

12月13日、日航ノースランドホテル帯広にて十勝池田町農協青年部設立30周年記念式典・祝賀会が執り行われました。式典・祝賀会には来賓9名をご招待し、青年部OB・青年部員・青年部事務局OB、総勢約90名の方々にご出席頂き、盛大な記念行事となりました。

式典では、JA十勝池田町・鈴木雅博組合長、池田町・勝井勝丸町長、十勝地区農協青年部協議会・吉田明史副会長に祝辞を頂きました。また、青年部活動にご尽力いただいた歴代青年部部长及び歴代事務局の表彰が行われ、代表して初代青年部部长・神谷輝俊さん、初代事務局・高山信雄さんに感謝状が贈られました。

式典終了後、JA十勝池田町・十河学筆頭理事の乾杯で祝賀会が始まりました。祝賀会では地域の垣根・世代の垣根を超え、会食を楽しみながら熱く語り合う様子が伺えました。30年の歴史を伝え、また引き継ぐことができたのではないのでしょうか。最後に、2代目青年部部长・多田彰弘さんの万歳三唱で祝賀会は締め括られました。

(記事・営農部営農課 杉山淳史)



農協青年部綱領朗唱



塚谷部長(式辞)



JA十勝池田町・鈴木雅博組合長(祝辞)



初代青年部部长・神谷輝俊さん(感謝状)



初代事務局・高山信雄さん(感謝状)



JA十勝池田町・十河学筆頭理事(乾杯)



祝賀会の様子



祝賀会の様子



2代目青年部部长・多田彰弘さん(万歳三唱)



第41回十勝農協連海外農業研修視察 アメリカ合衆国視察研修報告

十勝農協連海外農業研修視察は、海外の生産現場などの研修視察を通じて、農業生産水準の向上を図り、十勝農業の発展に寄与することを目的に実施され、今回で41回目となります。

平成30年11月6日～16日の11日間に渡り、アメリカ合衆国中西部（テキサス・オクラホマ・カリフォルニア州）の農業情勢の研修を目的に、管内11農協の役職員24名に事務局・添乗員を含めた29名が参加しました。当JAからは、八田理事、増野理事、赤松監事が参加させて頂きましたので報告をいたします。

オアシスファームズ ホーイントン氏

11月12日カリフォルニア州エルセントロ郡のオアシスファームズで野菜農家の現況をお聞きしました。初めにカリフォルニア州全体の農業粗生産額は5兆円で、エルセントロ郡は人口17万人農業粗生産額2千億円州内10～11位に位置しています。人口の40%以上が農

業関連に従事し農地は24万ha、畜産の400億円を筆頭にアルファルファ（牧草）・レタス・玉ねぎ・ブロッコリー・ほうれん草等の野菜が主な作物となっています。

オアシスファームズは耕作面積（全て借地）440ha、1995年からオーガニックを始め、現在は圃場全てオーガニックの野菜を栽培しているとの事です。近隣の農家にも、少しずつオーガニック栽培が浸透して来ているとの説明

でした。

当然、無農薬・無化学肥料での栽培ですから、視察者からは、

肥培管理など多くの質問が出ていました。勿論

リスクも有りませんが健康志向の強い富裕層の購買力と、メキシ

コ国境が近く安価な労働力確保が容易であるこ

とから全てオーガニックに切り

替えた特異タイプの野菜生産農家でした。

コロラド運河から農業用水を

カリフォルニア州エルセントロ野菜農家視察



オーガニック栽培されている圃場



引く灌漑農業を行い、野菜の生育期間は、10月から翌年の6月まで、充分な温度と乾燥した気候が一定の生育管理を助長しているように思えました。また、7月から9月までは高温期となるため栽培はせず野菜定植ベッドを作り、マ

る石灰・硫黄等の投入。作物には、有機農業をタイムリーに散布するなど徹底したオーガニック栽培を実践していました。気候・地域性・消費者の要求などいくつかの要因が、単に野菜生産からオーガニック栽培へと積極的に展開した事が

ルチを施し殺菌と除草効果を上げていくようです。もちろんそれで、全て安泰ではなく病気も出るし、除草も人力で行っていました。土質は見たところ沖積プラス重粘土で、乾燥するとかなり硬い土質ですが、何十人と労働者が除草作業を行っていました。

うかがわれました。アメリカの農家も現状で満足せず多くの苦勞を乗り越え、時代と環境に適応した営農を行っていることを感じ、私たちも十勝に戻り必要とされる農業を、実践する思いを強く感じ研修地を後にしました。

研修に参加して

八田 英司

最初の研修地アメリカ中西部は四季があり、想像以上に寒く最高気温4℃曇天の続く中雪の降る日もあり、その上長時間にわたるバス移動に時差ボケも重なり過酷な研修となりました。テキサス州では、大規模な放牧畜産業が展開されていました。視察先の牧場では、3万haの草地で放牧による繁殖育成が行われており、カウボーイが牛の管理をしていました。また、カンザス州の農場では、4千haを

所有しており半分をトウモロコシ・大豆・小麦等の穀物を栽培し地下水を利用したセンタースピット方式による円形の灌漑農業が行われており、残りをアンガス牛の繁殖育成の放牧地としていました。カリフォルニア州に移動すると冬で

も暖かく視察先のエルセントロでは、天気予報いらずの年間降水量70mm夏は暑すぎて農業は出来ない、冬農業の地帯で平均耕作面積は5百ha、畑ではレタス・タマネギ等の野菜・ビート・アルファルファが栽培されておりスプリングクラーによる灌水風景が所々で見受けられました。

広大な農地を水と安価な労働力で支えているアメリカ農業ですが、もしどちらかが欠けた時世界の食糧事情はどうなるのだろうか、一抹の不安を抱きながら、日本の食糧を支えて行く農業者としての自覚と責任を改めて感じつつ、今回の視察研修で得られた貴重な経験を今後の農協運営に生かして行きたいと思います。

研修に参加して

増野 隆 教

第41回十勝農協連海外研修視察、11月6日から16日のべ11日間のアメリカ研修に参加する機会を頂きました。

さて、今回はアメリカ中央平原。主にテキサス・オクラホマ州と西海岸、カリフォルニア州の各牧場

や農場を見聞しました。それぞれ気候、環境に違いはありましたが共通していた事は市場や消費者のニーズに敏感に経営を対応させていることでした。耕作面積や粗生産額は十勝の平均をもつてしても対比のレベルではありませんでしたがイメージ以上に農業大国で農業に携わる人も企業も多く、常にハード面の先行が求められていました。日本同様人手不足も蔓延し労働者の最低賃金や保障面についても上方修正していて、特にカリフォルニア州ではメキシコ系労働者の存在が農業を支えていました。さらにアメリカのファームビュロー（農業者団体）と日本の農協の違いも良く理解する事が出来ました。多くの事を学ぶ機会を頂いたJA十勝池田町をはじめ十勝農協連事務局そして同行した管内の役職員の皆様に感謝いたします。

研修に参加して

赤松 明彦

前半は中部のテキサス州、オクラホマ州、ミシガン州で一行の着いた頃より、急に秋が深まったようで、想定外の肌寒さとなり、オ

クラホマでは降雪にもあいました。あまりの寒さの中、屋外での視察は早々と切り上げ、農場主の説明はバスの中という一幕もありました。

当地は、全米の中でも特に肉牛の繁殖・肥育が盛んに行われており、また、広大な区画で穀類が生産されていますが、ほとんどの作物は収穫を終えた状況で、作業している大型機械などは見ることができませんでした。そんな中、印象的だったのは、サッカークロッドポンプと呼ばれる、石油汲み上げの機械が、牧場や畑のいたるところで稼働しており、農場主が石油採掘業者に土地をレンタルして副収入を得ているようでした。

後半の5日間はカリフォルニア州で、年間の降雨量は50ミリ前後で当然連日晴れ、気温も20度以上で快適な研修ができました。研修地は州南部のメキシコ国境近くのインペリアル郡で、州の10大農業地帯の一つであり、2000億円以上の農業粗生産額があるのこのとでした。もともと夏は40度を超える砂漠地帯でしたが、コロラド川より水を引き込むことにより、

灌漑農業が大規模に施工され、世界最大のアルファルファの生産地とのことです。

視察先は440町歩でオーガニック野菜を生産している農家、ビートの製糖工場、ジョンディア社のディーラー、全米組織の農業支援団体（ファームビュロー）を訪問し、研修させていただきました。

長距離移動の多い中、研修先も多く、ハードなスケジュールでしたが、それぞれの訪問先では農業分野に精通された通訳の方のおかげもあって、その地の特色や気象条件、現在に至るまでの創意工夫、そして作業の様子など、詳しくお話を聞くことができ、農業者と

しての責任感や情熱が感じられ、大変有意義な研修となりました。最後になりますが、このような機会を与えていただいた十勝池田町農協、十勝農協連、そして関係各位に深く感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。



スプリンクラーでの灌水作業の様子



白玉作り



きな粉作り



修了証書授与



みんなで試食

12月15日(土) 第5回目作業

第5回 青年部食育事業

平成30年12月15日に今年度最後となる食育事業が田園ホールの調理室にて行われました。内容は、食育圃場で育てた大豆を使ったきな粉作りでした。当日は12家族の参加による開催でした。大豆を炒る作業から始め、きな粉になっていく工程を子供たちは興味津々に見ているようでした。出来上がったきな粉は白玉団子にまぶして美味しく頂きました。試食後には食育修了証書授与式を行い、今年度の食育事業が全工程終了しました。

一年間の食育事業を通して子供たちも、青年部員もたくさんのことを学ぶことができました。今回は悪天候による作物の生育不順、害獣による被害等がありました。参加してくれた子供たちとは満足できる作物作りが出来ませんでした。このような経験も今後何かの糧になると信じています。

自分たちで育てた作物を自分たちで食べる。「いただきます」「ごちそうさまでした」その意味が子供たちに少しでも伝わっているならば、今回の食育事業は成功だと思います。

(記事・青年部支部長 多田将平)

青 年 部

全道JA青年部大会

札幌市のパークホテルで開催された全道JA青年部大会に参加してきました。

1日目は青年の主張、活動実績発表会、分科会が行われ、私が一番印象に残ったのが、JAたいせつ青年部の実績発表でした。「田んぼアート」の取り組み開始から「田

んぼアートフェスティバル」開催及び定着化の内容は自分たちの取り組みを自分たちだけで終わらせるのでは無く、地域を巻き込んでイベントの企画、継続により全道だけではなく全国から注目される取り組みへ成長していく可能性が充分にあるということを学びました。

懇親会では、十勝代表の方が純農ボーイでは準グランプリ、アームレスリング大会では優勝を果たし、大変盛り上がっていました。

2日目は基調講演等があり、あぐり王国北海道に出演している森アナウンサーが農村ホームステイを行った体験談を聞くことができました。その体験談の中で「農業のかっこよさを伝えていきたい」と話しており、今後の農業の魅力発信が期待できると思いました。

この2日間で学んだことを生かせるよう、今後の青年部活動を取り組んでいきたいです。

(記事・青年部員 北西亮介)



大会の様子

健康講座の様子



青 年 部

冬期研修会を開催

12月18日に、農協本所にて冬期研修会を開催しました。今回の内容は健康講座とポリシーブックについて行いました。

健康講座では、池田町保健福祉課より講師を招き、高血圧や生活習慣病の予防のための健康管理における食生活についてお話

していただきました。日本人のほとんどが必要な塩分摂取量を超えた食生活をしており、その影響で脳卒中や心臓病につながりやすく、高血圧予防は現代食生活の課題だそうです。減塩米菓や減塩味噌汁の試食も交えながら普段の食生活の改善点等の話を聞き、我々農業者の資本となる身体の健康管理について学べた良い機会になったのではないのでしょうか。

ポリシーブックについては、日頃の営農や青年部活動をしていく上での疑問や問題点を洗い出し、問題解決にむけ取り組むべき行動指針として平成24年度より作成していますが、理解が薄く実践段階で難しいものもあり、なかなか活用しきれていないのが現状でした。より一層ポリシーブックを活用した青年部活動をしていくため、今回改めて部員一人一人が今学びたいことや行ってみたいこと等の意見を集約するためアンケートをとりました。それをもとにポリシーブックを作成し、次年度の青年部活動に取り入れればポリシーブックへの理解も深まるのかなと思います。

(記事・青年部副部長 安富貴昭)

管 理 課

人事考課者訓練を 開催！

管理職員を対象として人事考課者訓練を、中央会帯広支所 西内優太主査を講師として招き、1月15日（火）農協本所大会議室にて課長・次長・部長の出席者のもと開催いたしました。

人事考課制度は、農協全体の目標と連動した個人の目標を設定し、職員各自が、自己の目標を達成するよう努力することにより、農協全体の目標を達成しようとする制度です。オープンで納得性のある人事考課制度を目指し「業績・プロセス（コンピテンシー）」で評価を行っています。

仕事の業績は、成果だけでなく、結果を導き出すプロセスと能力（原因）も同じように重要です。又、プロセスについては、求められる職員像にリンクするコンピテンシー（行動特性）項目を設定し、それが実践できているのか、能力が発揮されているのかの視点からも評価しています。部下と面接を行い情報の共有、必要に応じてOJT（職場内教育）により支援、援助を行い、職員の能力の向上と業績への反映を図っています。

今回の訓練（研修）では、人事考課の理解促進用の点検表を使いグループ討議による理解度の確認。人事考課の目的や役割を再確認し、各管理職の目線を合わせました。この訓練を活かし、面接やOJTによる部下の支援を行い目標達成に取り組んでまいります。

（記事・管理部長 花本 敦）

研修会の様子



鏡もち贈呈



農 産 課

もち米生産組合より 鏡もち贈呈！

平成30年12月28日、もち米生産組合の堀井組合長が本所を訪れました。

十勝池田町農協設立30周年を迎えたお祝いと、五穀豊穡の願いを込めて町内産の

「きたゆきもち」で作った特製鏡もちを、鈴木組合長へ贈呈されました。贈呈時には鈴木組合長より、もち米を作付けしている事で水利権をはじめ町内の多くの生産者に貢献しているとの激励をいただきました。堀井組合長も良質なもち米を長く作付けしていく事に、精一杯精進する事を伝えておりました。

贈呈された鏡成ちは、12月28日から翌年1月11日まで本所でお供えし、1月11日の鏡開きには、十勝池田町農協の益々の発展を願い、職員の手により金槌で割って配布させていただきました。

（記事・農産課 松村 暁）

施設課

農産センター
季節従業員慰労会

1月14日に十勝川温泉観月苑において季節従業員の慰労会が開催されました。農産センターに集荷された、豆・馬鈴薯・玉ねぎ・ネバリストは機械選別の後、製品の品位の判断は人によって決定され製品となります。選別作業の所によっては土砂、埃も舞う厳しい箇所もあり、その環境でも鍛えた選別能力を発揮していただいています。

決められた基準に沿った仕分作業は、簡単に習得出来るものではなく、担い手の不足も感じられる現状ですが、「安全」「安心」な池田の農産物！をお届けしている！とした責任感は強く日々の選果に係わっていただいています。

鈴木組合長より日頃の作業への感謝の気持ち、ねぎらいのお言葉を賜ると共に、厳しい農業情勢のお話には一層気持ちも引き締められる様子でした。

温泉の湯に浸かり美味しい料理、楽しい会話、笑顔と笑い声でひと時を過ごし疲れも飛んで行った様子でした。

今後の選別作業に置いても、経験と技術を生かした製品造りを心掛け、お預かりしている作物を一粒一個も無駄にしない選別を目指します。

(記事・農産部施設課 本郷浩二三)



慰労会の様子

樹木も老木となると、枝葉も美しくなく、委縮して衰えるものだ。このとき思い切つて枝葉を切りすかせば、来春は枝葉がみずみずしく、美しく出るものだ。人々の身代もこれと同じことだ。

はじめて家を興す人は、おのずから常人とちがったところがあるから、百石の身代で五十石に暮らしても人が許すだろうが、その子孫ともなれば、百石は百石だけ、二百石は二百石だけのことに交際をしなければ、家内の者も下男下女も他人も承知しないものだ。それでついに不足が生ずる。不足が生じて身の程を知らなければ、ついには滅

身に応じた暮らしをして、将来のために蓄えなさい。
それが家を永遠に保つ唯一の方法である。

夜話 分度による推譲は永安の道

亡する。これは自然の勢いで、のがれられぬところだ。

それゆえ私は、常に推譲の道を教える。推譲の道とは、百石の身代の者が五十石で暮らしを立てて、五十石を譲ることをいう。この推譲の法は我が教えの第一の法であつて、家産を維持し、かつ漸次増殖してゆく方法なのだ。家産を永遠に維持すべき道はこのほかにない。

(北海道報徳情報
報徳生活読本より)



シリーズ
協同組合と報徳
No.50

生産資材課より

平成31年度農薬取りまとめ 全品目10%値引きにて実施中!

日頃より、生産資材課事業の運営にご協力頂き、誠にありがとうございます。

生産資材課では現在平成31年度早期農薬取りまとめを実施中ですが、例年に引き続き購買事業の基本であるコスト削減に向けた低価格での供給に重点をおき、より一層充実した取りまとめを実現する為に、農薬取りまとめ価格を全品目10%値引きにて実施しております。



組合員皆さまの農薬コスト削減のためにも、是非取りまとめをご利用いただきますようお願いいたします。

1. 取りまとめ品

平成31年度 農薬

2. 申し込み期限

平成31年2月16日（土）

3. 取りまとめ価格

全品目、当用期価格より10%織込み値引き

4. 価格動向

国内需要が停滞している中、安全性の確保のための規制強化により製造コストの増大、銅などの原料が一部値上がりしているものの大半の品目で据え置き。一部薬剤や大型規格等が値下がりとなり加重平均で▲0.3%値下げりの見込み。

アシストスーツ無料体験実施！

今、流行の農作業で負担のかかる腰・身体的負担を軽減するアシストスーツ（モリタ製「ラクニエリ」）が、この度、ＪＡ共済から装着体験用としてＪＡに提供されました。

JA生産資材課において、装着無料体験を実施いたします！

ぜひ、この機会に一度、装着体験してみませんか？

※男性だけではなく、女性の方にも装着体験出来るようにXS・S・M・Lの4サイズをご用意してお待ちしています。

前屈からの
立ち上がり
が楽になりました!!

**生産資材課において
無料装着体験できます！**



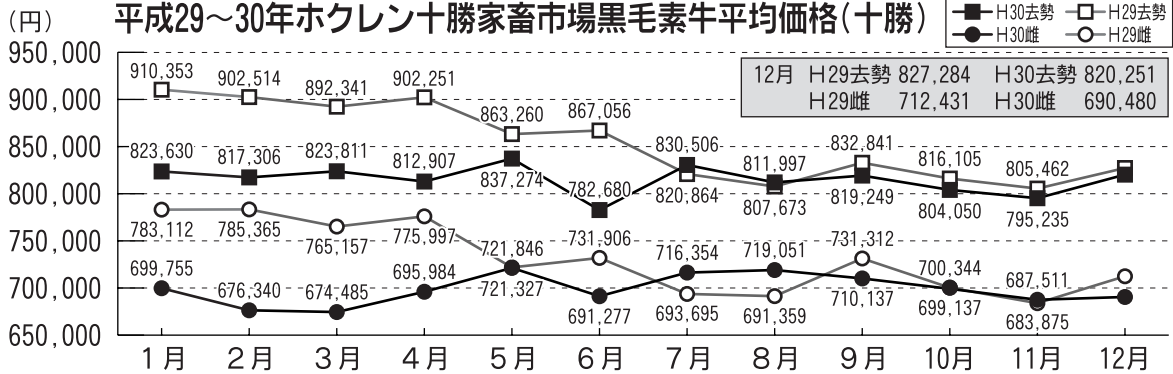
- | | |
|----------|--|
| ① 装着体験場所 | J A 生産資材課事務所内
(実際に資材課にある荷物等を使用し体験してみましょう) |
| ② 体験期間 | 2月12日(火)～3月22日(金) 資材課営業時間内 |
| ③ 購入先 | 生産資材課にて購入となります |
| ④ お問い合わせ | 金融部 金融共済課 担当：緑川
購買部 生産資材課 担当：多田 |

※ 詳しくは2月広報配布時に送付いたしましたチラシをご覧ください。



畜産部通信

畜産部
畜産課



12月黒毛素牛出荷区分別成績

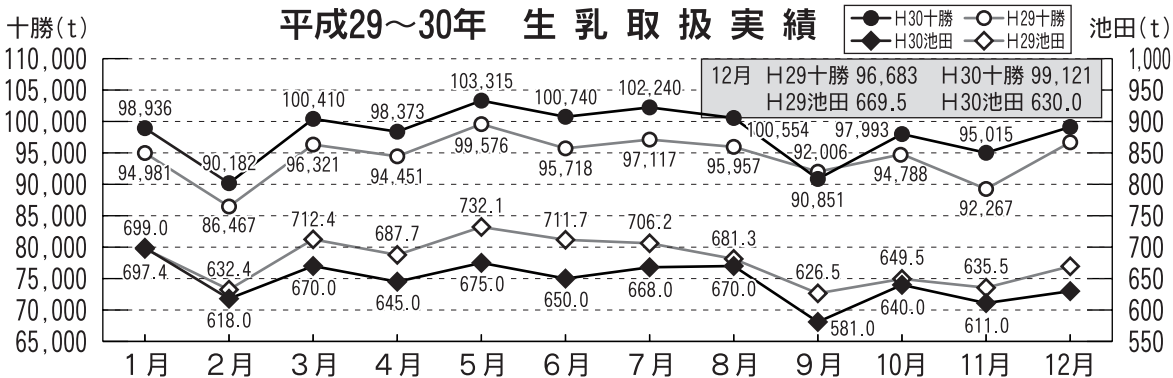
【金額(円)】

		取引頭数	平均価格(税込)	前月価格比	参加率・認定率
去勢	和牛素牛	728	820,251	25,016	
	マニュアル参加牛	474	818,424	16,388	65.1
	マニュアル認定牛	45	894,696	7,896	9.5
	池田				
	和牛素牛	62	772,967	-61,899	
	マニュアル参加牛	58	774,881	-66,312	93.5
雌	和牛素牛	567	690,480	2,969	
	マニュアル参加牛	405	688,400	-1,195	71.4
	マニュアル認定牛	12	756,900	42,210	3.0
	池田				
	和牛素牛	51	682,878	-9,361	
	マニュアル参加牛	48	680,513	-13,972	94.1
	マニュアル認定牛	0	—		0.0

12月ホクレン十勝枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	規格	平均単価(税抜)
8日	黒毛去勢	A-5	2,755
		A-4	2,530
		A-3	2,316
	黒毛雌	A-5	2,650
		A-4	2,525
		A-3	2,321
	F1去勢	B-3	1,525
		B-2	1,476
	F1雌	B-3	1,530
		B-2	1,390



12月ホクレン十勝乳牛市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
5日	乳牛育成	600	427,162
18～19日	乳牛初妊	952	914,474
	乳牛経産	67	542,515

12月十勝中央家畜市場

【金額(円)】

区分	平均価格(税込)	前月比
乳牛オス初生	106,383	-14,440
F1オス初生	284,665	-1,745
F1メス初生	186,768	+3,639
廃用牛	173,415	-7,010

草地更新
3か年運動

草地更新のすすめ

パート9

リードカナリーグラスの防除を目的とした草地更新

1. リードカナリーグラスの特性

リードカナリーグラスは草地に同心円状に侵入することが特徴で、他の草種に比べて草高が高いので、遠くからでもその侵入を容易に確認することができます。シバムギと同様に地下茎を持ち、地下茎からも個体を増やしますが、種子によっても個体を増やすことが特徴です。また、シバムギに比べて収量性は高いものの、生育ステージが進むと極端に栄養価が低下するので、チモシーの刈取りに合わせて収穫すると、特に消化性の低い繊維成分が多くなって、採食性が悪くなります。



2. 防除のポイント

シバムギと同様に草地更新時に除草剤処理することが最も有効です。1番草収穫後に前植生を処理し、さらに、播種床を造成してから一定程度放置した後、除草剤を散布する「播種床処理」を組み合わせた体系的な処理が効果的です。

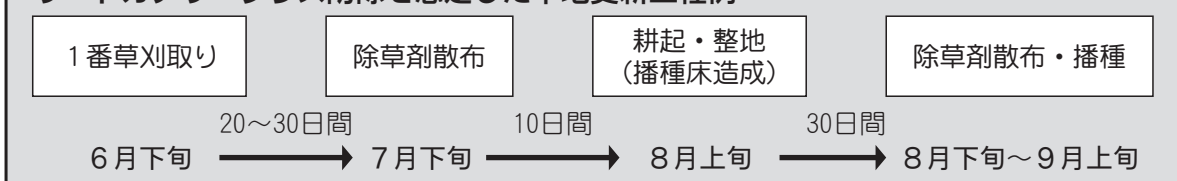
(1) 除草剤は高濃度で!!

前植生処理に使用するグリホサート系除草剤（ラウンドアップマックスロード等）の薬量は500～750ml/10aとなります。また、植物体に吸収される薬剤量を多くするため、草丈30～50cm（刈取り後3～4週間経過後）まで伸長させてから散布することもポイントです。

(2) 体系処理が効果的!!

種子から発生するリードカナリーグラスを防除するタイミングは「播種床処理」しかありません。8月上旬までに、前植生の処理、堆肥散布、耕起、土壌改良資材の施用、砕土、鎮圧し播種床を造成しておきます。リードカナリーグラスが出芽し一定程度生育する（20日程度）のを待って除草剤を処理して牧草を播種します。この時の除草剤（グリホサート系）の薬量は200～300mlとなります。

リードカナリーグラス防除を想定した草地更新工程例



理事会の動き

第 11 回

〈平成31年 1月28日〉

★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の加入、脱退及び資格変動について
- (2) 組合財務の現況について
- (3) 12月末基準決算見込みについて
- (4) 平成30年末組勘整理実績について
- (5) 特定組合員の年末整理状況及び負債残高について
- (6) 平成31年産農作物の作付予定面積の集計結果について

★ 議 案 ★

- (1) 組合員の資格変動並びに出資金持分減口承認願いについて
- (2) 自治監査結果の報告について
- (3) 公社貸付牛事業の実施と転貸について
- (4) 平成31年度各種事業に対する利用料金料率の設定について
- (5) 平成31年度行動計画について
- (6) 地区懇談会の開催について
- (7) マネー・ローンダリング等および反社会的勢力等への対応に関する基本方針の一部改正について
- (8) 反社会的勢力等への対応に関する規程の一部改正について
- (9) マネー・ローンダリング等への対応に関する規程の制定について

★ 協 議 案 ★

- (1) 生活事業のあり方検討について
- (2) 組合員ファックス端末の更新並びに平成31年度リース物件の取得（案）について

今月の1枚



女性部冬期生活講座

今月の1枚は1月31日に行われた、女性部冬期生活講座での1枚です。

例年、支部のあるところでは開催していましたが、今回初めて支部のない方々に農協の大会議室にお集まりいただいて、保健センター保健師による栄養や食生活による講話や、みそ汁の塩分濃度を測定しながら減塩についての説明を聞きました。

平成31年が始まり早くも1ヶ月が過ぎました。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年もインフルエンザが流行しております。厚生労働省の発表では1月21日～27日の1週間でインフルエンザの患者数が1医療機関当たり57・09人と、昨シーズンのピークだった54・33人を上回り、1999年の調査開始以来、最多となったそうです。

また、今期はインフルエンザA型が2種類流行しており、A型に2度感染する可能性があるそうです。B型も含めると3度感染する恐れもあるとのことですので、一度ないし二度罹った方も油断せず、手洗い・うがい等予防に努めましょう。

(杉山)

